
DEATHLESS
デスレス
六道神士
7
SEVEn
Rikudou Koushi
YOUNG KING COMICS


DEATHLESS
デスレス
六道神士
7
SEVEn
Rikudou Koushi
YOUNG KING COMICS

デスレス

DEATHLESS

六道神士
Rikudou Koushi




第43話 共闘するひとたち





…一応
言うとくぞ！
ワシらは
争いに来た
ワケじゃあ
ない


キサマがさらったクソじじいを返しゃすぐに帰るわい！


ザラァ
守られぬならば
孰れ禍と成る
禍は
銷却する


武蔵!…やるよ!
…おう!
ゴク…
ミカサ…頼むぞ!


ガサ!!
ガサ
バンザーイ!
ビク


あるじ様！
ご無事で！
うむ うむ
本体は確保した……
これで最悪の被害は回避したな
結局 大きな被害は……
殉教者── 5名か
忌々しい


ん…蔵の中の武具を提供したのか
申し訳ありません勝手に…
テヘペロ
よい…おかげで被害が最小で済んだ
それにあの式鬼はもはや我らにとっても害敵じゃ
できればこの機会に…壊しておきたいのう
……一応術具の準備はしております
…「あれ」をここで使ってしまうのは本末転倒じゃな


宮の守のものもなかなかやるようだ
多少 手を貸してやるだけでこちらの手間を省いてくれるやもしれぬ
乙金
すまぬがおまえの体を今少し危険にさらすぞ


乙金導師も本望でございましょう
うむ…心底悦んでおる
「こやつもつける薬がないのう」




?!
手応え…
あったか!
まだだよ!


目に頼ったら
混乱する…
ミカサが
先を読む——
そのイメージ
通りに動く——
昔よくやった
もんじゃ


ミカサを…
信用するんじゃ
それがいちばんムズかしい
というかコワいコワい
ドキドキ
ドキドキ
式鬼の気配が弱まっておる…これは想像以上じゃな
手助けの必要はないやもしれぬ

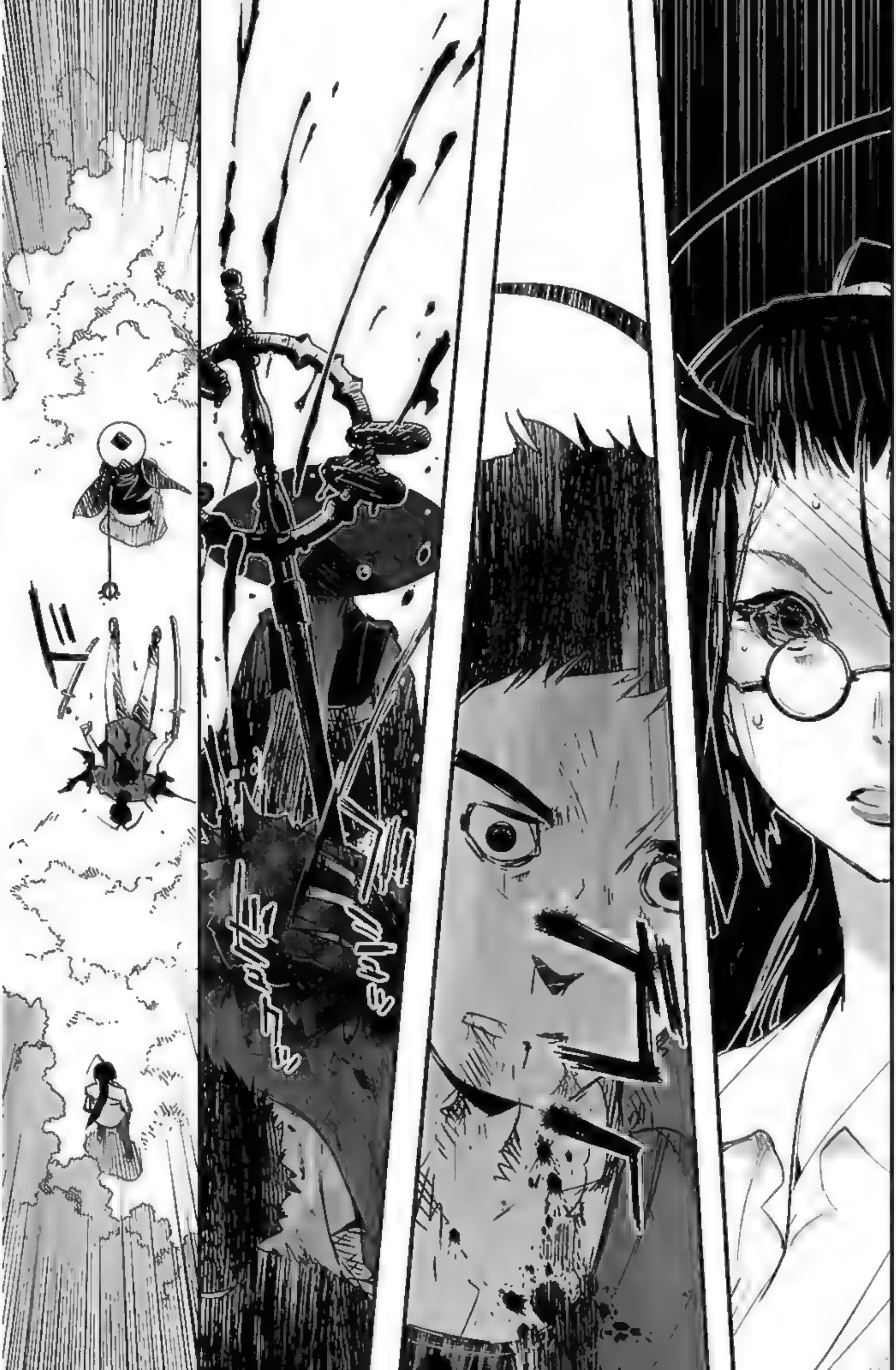

早すぎじゃ！
ムリ言うなよ!!
相手は手負いだ
気張りな
こうなったら
詰め将棋
みたいなもんだ
桂
飛
と
金


……よし！
くわッ
通った！


ガッ
ニャ…
…やったか？
……


——大丈夫だ
…止まってる
疲れた〜
久々だったね
…相変わらずズルした気分じゃ
これで勝ってもさっぱり気分がよくないわい
仕方ないさ勝つのが目的じゃないんだ
延寿を探すよ
おお


そうじゃっ…
武蔵？……




な……
しゃりん
なんで!
確かに止まってたはずだ!
武蔵……くそっ!


——アタシに なんにも わからないなんて!
いったい どんな 仕組みだ!
くっ…


ツ
ひゅ〜う
武蔵!?


下がっとれ！
武蔵！
アンタ今
やられたんじゃ……！
ワシにも
わからん！
……ん？
まったく…
油断したわい
フクウ？
キュ
フク？
ほんとじゃ
アンタ…
なんで…って
ハゥ
ってことは――!






っったく！
ミズキ！来るなと言ったろうが！
また羽なんぞ生やしおって！
ありゃー
なんだー


とか言って
あぶなかったじゃん
も――
あーギリ
間に合った
調子にのるな
先に延寿を
救出して
ミカサ殿と
ムサシ殿を
回収すれば
逃げるだけで
すんだのだ
・・・
大人しく
ゆくと
言ったろう
だって
お爺ちゃんが…
遺体を
回収できれば
どうにかなる
いやよ
そんなの!!



禍つ神――
――あれは
じゃりん
天地の
災禍なり
第43話／完


やれ
危ういところだ
・・・こんびになんぞに
寄るとか言い出す
からだ
スザクも
唐揚げ
食べたじゃない
セーフ・・・

デスレス

DEATHLESS

第44話　まもりつづけたひと




帰れバカもんが！
来ちゃったもんはしょうが無いじゃない！
ミズキなんぞに心配されるほど老い耄れとらんわ！
だいたいなんじゃその薄着は！
危なかったくせに！
この服は羽が邪魔だからしょーがないの！
なんのはなしだ



武蔵お爺ちゃん達は
延寿お爺ちゃんを
助けに行って！
できるか
危なっかしい！
いーから！
そのお坊さんに
スザクが
用事があるの！
ハッ
スザクさん！
アタシらで
この——
——式鬼って
仕掛けを！…
さっき一度
確かに
止めたんだよ！



だが1分と
たたないうちに
また動き出した！
アタシの
千里眼じゃ
分からない
理由でだ！
気を付けとくれ！
情報ありがたく
了解した
ミカサ殿
うえ…
死なないって
こと？
いや…
どのみちとうに
生きてはおらぬと
いうことだ


いくよ ムサシ
しかし…
延寿さえ取り戻したら みな退却だ
戦うのが目的じゃぁないからね
それじゃ アレは…
危険な代物かも しれないが… この際 仕方ないね
生き返る理屈が わからなけりゃ 何度やっても 多分さっきと 同じさ
ほっと くんかい
こっちにも 爆弾(ミズキ)がいるんだよ
来ちまったもんは しょうがないだろう
すぐ戻る! 頼んだよ スザクさん!
ミズキが羽目を 外さないよう うまくやっとくれ


ザッ
バサ
ザザ…
うわぁ…
初めまして…
思ったより
乾きモノで…
みいらー
乾きモノ
言うな
天地に
降りきたる
災禍
災禍
蝕災


というわけで
ミズキ殿
ちと
代わってくれ
おっけ！
タッチ
なんか
話通じなそう
だけど
がんばー♡
イラッ
ザザァ
ッ
ファサ


昔――
ここより遠き平野にて
紅き鳥をとらえた漢がおった
鳥はもと…
平野に名も轟く
人蝕の鬼であったという


鳥は女となり
そのものらは夫婦(みょうと)となった
嬬子(おっと)の名は
慧来(エノキ)
そして
慧来(エノキ)は内儀(つま)をこう名付けた――


朱雀(スザク)と

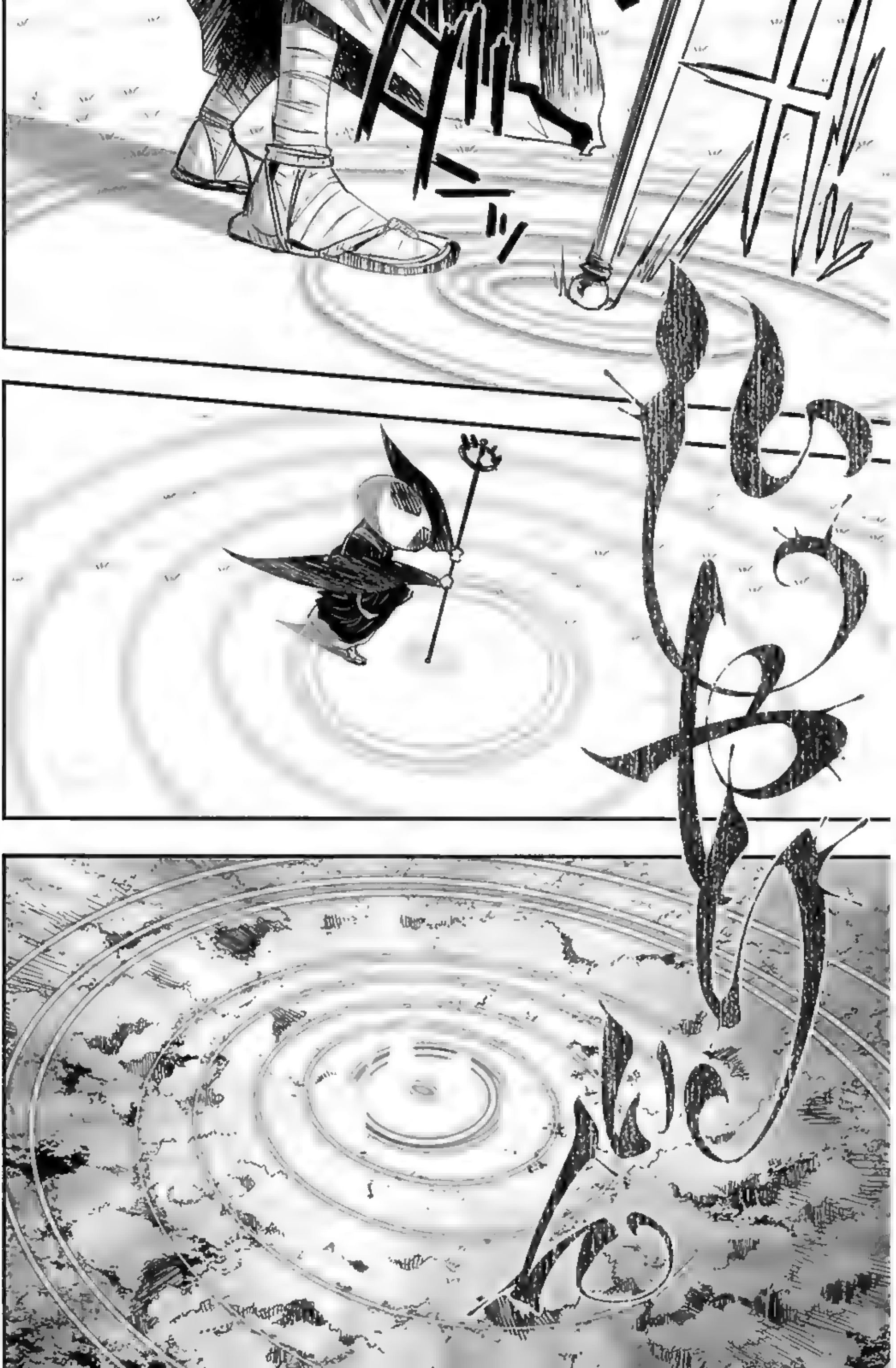



ギッ
ギッ
延寿！無事か！
あー わざわざ ありがとね
ポー
ポー
囚われの お姫様役って たいくつでさ
ポー


動かないで食べてばっかだから太るとこだったよ
ポリ ポリ
ブン殴る!
ゼーゼー
ったく…
さ 急いで引き上げるよ
てことはあの坊さんは片付いてないの?
つまりミズキが抑えてるんだ
危ない事するなあ
キサマが言うな!
勝手に来ちまってね
そういやアンタと一緒に掠われたっていう教祖はどうしたんだい
一足先に教団からお迎えが来たよ
あいつら…! やっぱワシ等を囮にしよったんじゃな!
まあそんなとこだろうさ


教祖てな
どんなヤツだい
ん!…
かわいい
子ヘビちゃん?
…あとから
ゆっくり
聞かせとくれ
とにかく
ウチに
帰ってから…
!?


な…なんかすっごくキレてない？
ちょこっと感動的に盛ったんだがの




むむ…
代わって！スザク！


あっぶな！
災禍
封印！
封印！
全ての
……を始動！


——喰わぬうちに
——封印を
ズズ
……喰われた！
鳥は…
喰われた！
ズ
ズズ
えっとこれは？
落ちとった
ムサシお爺ちゃんじゃあるまいし刀なんて…


どうなの？
昔の彼氏？
うるさい
わからぬ
反応があったのは
確かであろうが…
いきなり
キレられるほど
ひどい別れ方じゃ
なかったよね
待て
なんでミズキ殿が
そのようなことを
知っておる！
うわ来た！


きーやー
あゆゅ
……なんじゃ
この怪獣映画は
さっきまでと
全然違うぞ…


多分この山全体が仕掛け…というか要塞みたいなもんなんだろう
さっきまでのが防犯装置だったとしたら…今のがこの要塞本来の機能なんだろうさ
山全部要塞じゃと？
そんなもんいったい誰が
さあ…
ヘタするとアタシらの御先祖様がらみってこともある
いったいなんのため…
ミズキの中にいる化け物用に決まってる
悪い流れだ！
まったくあの子ぁ…
調子にのって…


おー切れる
切れる！
おい！
危な…
ザシュ
オ
い痛あ〜い
ハヘ ハヘ
ボロッ
オオオ


ガシャ
メリメリ‥
メキ…
もうっ！
ミズキ殿！…落ち着くのだ
うん わかってる 約束だもんね
大丈夫…抑えるから…


でも
ムカつく！
これって
ただの仕掛け
なんだよね！
壊すよ？
お？
おお


ギギギギギャアアア
きぃっ
ふん!
あたし
強い!
ジャキ!
わかった
わかった


あやつは
夜叉では
なかった？……
やはり
宮の杜の繭は…
割れておったのか
ドドド
しかし
我らの知らぬ
・・・
この山…
在野の術士の
仕業か？
このような
所で封印される
わけには
ゆかぬな


え
お
ゴオオオ
ドド


ゴオオ



第44話/完



デスレス

DEATHLESS






かたちあるもの全て腹にか…大食らいめ
やれ大自然の敵だの
…いつか植林する!
だいたいアイツ…なんかモロいわりに効いてなくない!?
ひとつのものでなく羽虫の群れのようなモノのようだの
ズ ズ ズ ズ
手応えないし…
先日の死体人形どもと同じだ
かりそめのかたちゆえ一時の時しか持っておらん
消耗戦の予感がするの
他人事みたいに
ここがはげ山にならぬうちにかたを付けたいものだ

第45話　もういないひと




こーゆー敵 延寿お爺ちゃんの ゲームで見た事ある
ほう そのときは どのように 倒しておった
敵をひとつに まとめてから 攻撃か…
敵の中心とか 弱点を見つけて 攻撃…みたいな
やっぱ あれかな スザクの 元カ… 元ダンナさん
妙な表現を するな
…ミカサ殿の 情報によれば あれも「弱点」では ないようだが… 試しに 食ってみるか
ギュン
いいの？
だから 妙な気を 廻すなと…
あ


……
またか
ちゃんと避けぬか
思ったより
クイック
なんだってば！
うざーッ！


なにやっとるんじゃアイツは
なんか屈託アリみたいだよ
とにかくこうなったら逃げの一手だ
ほっといてええんかのう
延寿も助けたしアタシらが安全地帯に退避すりゃ戦う理由なんかないんだ
あとはスザクさんを信じるさ
ミズキよりは冷静だしねー
む…


出おったな女！
…強く反論できんのが辛いところじゃがわらわの手下に禁止用語を付けて呼ばんでほしいな
…ん？
中身が違うのさ
なんでもええわい邪魔しに来おったんじゃろ
休戦協定を破棄したいんならわしゃかまわんぞ
わらわは忠告に来ただけぞ
ぬしらはまだ去ぬるべきではない


ズズズ



おッけらーッ！
んー
田鼠であろ？
どのみちキモい！あんまし見たくない！


食べるよ！
痛いかも！
うむ…
!
惜しい


人には稀なる能者
消ゆるに惜しい
千年の守人となれ
我らはひとでないものの総代
この地に眠る「羅睺（らごう）」の番衆
「羅睺（らごう）」とは
「羅睺（らごう）」とは
一時先か千年の後か
ひとたび目覚めれば――


ひとを
あやかしを
天地凡てを喰らう怪物
凡て──
ならば我が永遠の鳥も──
ぷはっ



いたた…
なにか見えたよね！
一応…止まったけど…？
ひとではない…
そりゃね…
そうではなく…
これはひとの陣営のものではない
なんか動いてる…！
吾やカマドのような…ひとでないものたちが用意した罠……
…いや防衛装置と言うべきか
？
どんな？


異変を感知すれば目覚め――――
まずはめぼしい異能の持ち主を捕らえて隔離する
なんで…？
喰う…いや
取り込まれぬように
ミズキ殿が吾を喰らい吾のちからを身に付けたように
このように
異能の持ち主を喰らって手の付けられぬ強力な魔物とならぬようにだ
あたし？


隔離して そのあとは…？
敵が どうにかなるまで 監禁するか… おびき寄せるための 餌にするか…
場合によっては 防御機構そのものの 補強に使う——
いきかえった
このように…
ふ…


我が鳥に
永劫の幸いを
は…
そのような甘やかな言葉生前はついぞ聞かなんだぞ
直に言え直に
我が鳥に
永劫の守護を——
…あれからお前は…
ずっと…
ずっと…


我が鳥は……
喰われた……！
大莫迦者(ばか)！



吾を未来永劫影ながら守るつもりだったとでもいうのか…
重いわ！
お主はひとの生に…ひとの寿命の限りにこだわって吾から去ったのではなかったか
なんという態だ魑来！
それを妖物どもにいいようにのせられて…！
なんの安息もなく…！


……
ミズキ殿…
吾は…
あの莫迦者を…
楽にしてやりたい…
うん…
だよね…
そーしたいけど
どー倒したもんかな
キリがないって
いうか…あはは！
は……


あ…ごめん
ちょっと さっきから 楽しくって…
ミズキ殿…
大丈夫… 約束だもんね
ガマンする
んーーッ
いかん… 限界か…
グイグイ
? フクウ?
なにか あったのか?


スー
こら乱暴に扱うな
……？
フクウ？
夜叉どもよ…
わっしゃべった！
おお



いや…夜叉とはいえぬのか…
不空が斯様な姿になっておることで気付くべきじゃった…
…まあ今はおいておこう
誰!?
わらわは「実済智のあるじ」じゃ
ぬしらとは一度会ったのう
あ…
そのあるじがなんの用だ
いま忙しいんだけど!
オオオ
その式鬼のことじゃ
もう囚われ人はおらぬのにぬしらは引かぬのか?
引くはずだったんだけど――
ちょっとワケあってほっとけなくなっちゃって
ふむ
わらわも賛成じゃ


これは放置しておってはいずれ関係の無いものたちに被害が出るじゃろう
ああもう仰々しく勿体ぶっておらんでなにか策があるなら話さぬか
まあまあ
——まずはこの山…
山？
これを作った連中がこの御山そのものを式鬼としたようじゃ
山ごと？
そんなところであろうな……
そしてこの御山の地脈のいずこかに術の本体を置いたんじゃろう
それを潰さんかぎりこの仕掛は止まらぬ
本体が別にあるであろうことくらい察しはついておるわ


もっと役に立つことを知らせんか！
うむ そうじゃな
その本体を探す方法について提案があるのだ
ほう？……
いやあの！できれば急いでほしいんだけど！
な・・・

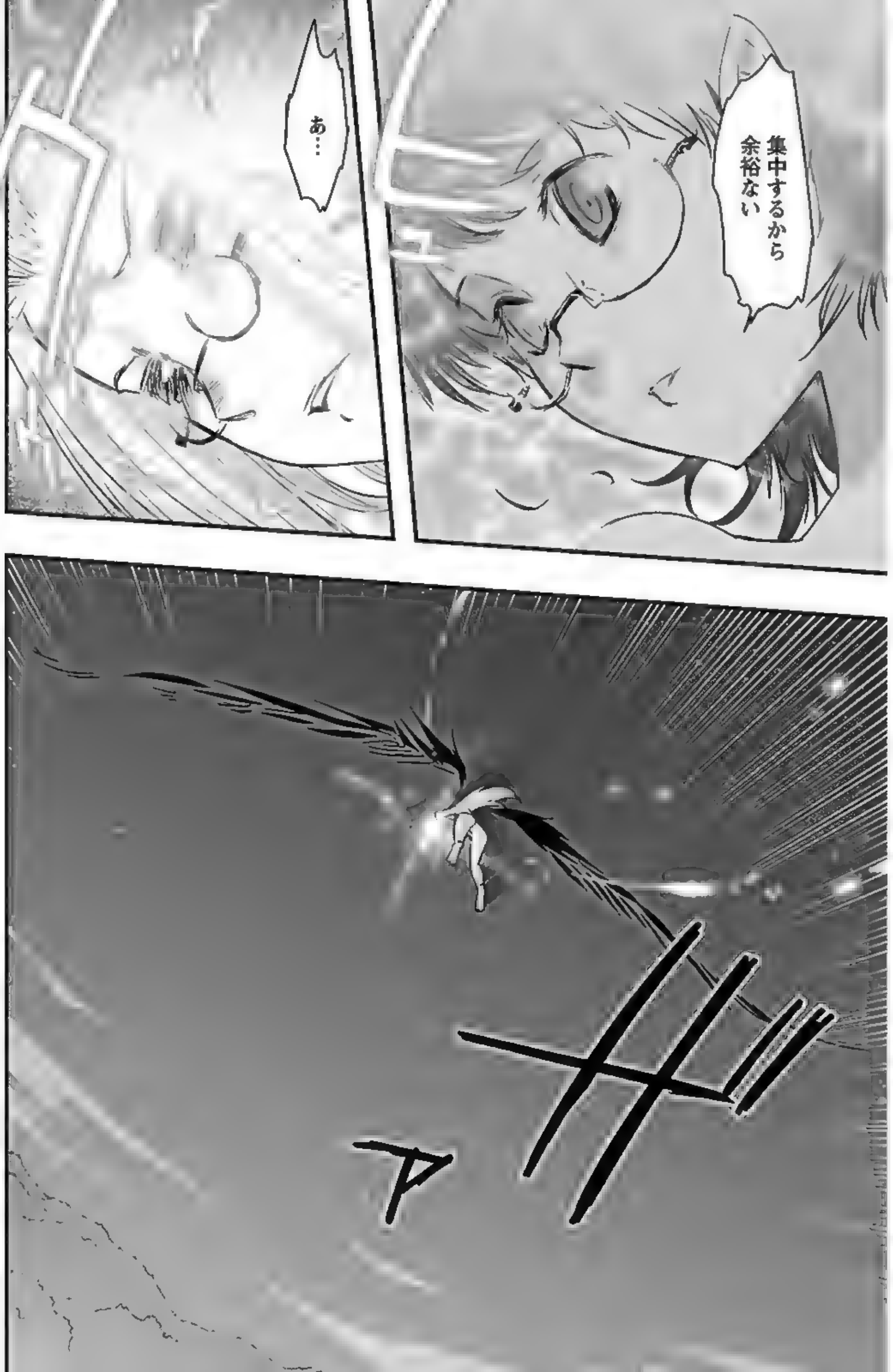

貴様…この有様を理解したうえでそのようなことを言っておるのか
なるほどねー…
血迷うなミズキ殿！やはりここはいったん退却を…
スザク
大丈夫……多分
ハァ
ギリ…
いやそれは大丈夫ではなかろう
ちょっと試してみたいこともあるし…
ハァ
いやいやだからちょっと待て！目が据わっておるぞ！
ウ…
キュ～


大丈夫かフク！
どういう話だったんだい
……うむ乗り気であったよ
わらわも意外だ



ミズキ！なんて格好…
お婆ちゃん！
ごめん！あとから説明する！
え……
うわわっ！


ゴオオォ
ミズキ!? まさかアンタ…
バババ
ミズキ殿！ おい
取り返しのつかぬことを考えるな！
・・・・・ミカサ殿を喰うなどと！
ズ
…ちょっとごめん



第43話／完


式
SHIKI
鬼

デスレス
DEATHLESS


どうしたんだい
ミズキ！
お待ちっ
たら…！
なんで…
アタシの時を…
！
…
!?
違う━……
ミズキ…
お前…
喰ってるのは
時じゃあなくて…！


第46話 遠くからきたひとびと


まったく…
大概責任が持てぬ…ん？
どうしたフクウ…
おい！
えい次々と…
吾が身が本当に無能に思えてきたわ
お
お
お？
本当にやりおった…


おい なにが起きとるんじゃ！
さて
わらわは可能性の高い「理屈」を提案したにすぎぬ
具体案はあの夜叉もどきまかせじゃ
なんじゃそりゃ…
ヤシャモドキってミズキの…おわっ⁉
なんじゃあ⁉
これは…


？
不空（フクウ）…？
！！
なんじゃこの子供は！
おいフクはどこいった！
ふむ…？
思うたより小食じゃのう
記録とは少々違うようじゃ
ドクン



オ
オ…
ここは…
アタシゃ
いったい…
……ミカサ殿？
ビクッ
誰だい！
うむむ
ミカサ殿は
この姿は
未見であったか
って…
スザクさん…
なのかい？
てことは
ここは……
まさか……
うむ…吾は
たった今まで
単純に——
「ミズキ殿のなか」
——とばかり
思うておったの
だが…
ズズズ


ウ…
──そうかい…
これが…
こいつぁ
また
なんて
ザマだい
ハダカだし
……面目ない


…これが喰われるってことなのかい？
吾もただの今までそう思っておったのだが…
？
さっきから煮え切らないね……ん？
ありゃあ…
フクウ？……
あれがフクなのかい？
うむ…元の姿に戻っておる
おそらく…ここの人数を増やさぬようにしたのだろう
どういうことだい
ミズキ殿なりの暴走を抑える工夫だったようだが…
それでも刺激が強かったようだ…
はぁ
ミズキのやつ正気を失いかけてんのかい…


うむ…思ったより一杯一杯なようだの
なんてザマだい
とにかくミズキ殿がこの有様では我々でなんとかする他ないのう
ああ頭が混乱する
で…アタシを喰った理由は？
あの阿呆教祖がミズキ殿に余計な事を吹き込みおっての
あの式鬼の本体を探すなら
「千里眼」を取り込めばよい
——とな
早速ミズキ殿のことがばれておるし…
不覚…



とかく面目ない…
あの式鬼にこだわる羽目になったのは吾のせいなのだ
どうせミズキが突っ走ったんだろ?
ま 詳しい事はあとだ
とにかくこうなりゃ一刻も早くあのバケモノを壊して一息つくのが先決だよ
あれを視りゃあいいんだね?
話が早くて助かる
これがフクじゃと!?
キサマ!何をした!
何かしたのはわらわではないのだがな
しかし…それが懐くとは珍しい


ミカサ殿
頼む
ああ
……
ミカサ殿
どうした?
…スザクさん
悪い


イマイチわかんないよ
構造がうっすら「視える」だけでそれ以上は…
ーえーと。8
なんだと？
話が違う！
阿呆教祖のもっともらしい戯れ言を真に受けていい面の皮ではないか！
さぃぃぃ
うーん…
言ってる場合じゃないか……
仕方ないね…
スザクさん…
…ここのなかの時ってなどうなってんだい？
む？
ザ
……ふ
ピク
ようやく本気を出すか
い…


折角 夜叉まで使うて若返っておるというのに
なぜあの千里眼が半端なかたちをしておるのやら不思議じゃった
おい…まさか…ちょっと待たんか…
単なる遠見や失せ物探しの力なぞ「千里眼」の表面的な能力に過ぎぬ
「千里眼」とは本来此方の裏側
かたちなきものを暴きたてる傲慢きわまりない視界のはずじゃ
やかましい!
ミカサ!
あのバカ…




ギュイイイイ…
ザァ…
おお…段違いではないか
なぜ最初から…
はンッ！
真打ちは勿体をつけるもんさね！
おーっ


見える…
カカカ
凡ての許等和理が察るよ！
すっ
カカカ
ミカサ殿様子がおか…
ッさい小娘！
な…こむす…
あ？
よもやニンゲンに言われようとは…
ぶひゃひゃひゃひゃ！
ひーーッ


オトコ見送って
ガン泣きとか
小娘じゃないか
んなッ…
んでミズキにゃ視えなかったみたいだが…
結局そのあと同じような良人が何人もいたんじゃないか
3人だけだ
何人もとか
ま 最初のダンナだし？
初夜にうれし泣きまでした相手じゃ気にもなるさね
どれ他には…
いや待てミカサ殿？
見るな
そんなに酷いのか
アイツに心を砕かれた大人を山ほど見たもんじゃ
ワシゃ幼ない頃である意味幸運じゃった


僕ははじめて見たへ～
ってそれだけじゃないんじゃ！
あいつ無茶しおって！
う～わ～～
3人目の情人(オトコ)とかアンタそりゃ犯罪だよ
いやもうなんというか吾が悪かった
その話だけはカンベンを
頼むから協力願えぬか
ああ あの式鬼(しき)だろ？
根っこは地下にあるみたいだよ
丸見えだ
すさまじい
ムサシ殿がびくついておったわけだ


アンタの旦那は地下の隠し室にいる
…たいしたもんだ
死んでこれだけ力を残せる術者なんざ歴史に何人もいやしない
……っ
ああ…
であろうな
その周りで…
3人？…
いや3体の・・・なにかが…
アンタの元旦那を式鬼の電池代わりにしてる


なるほど
キリなく湧いてくるわけだ…
アンタのダンナはこいつらに利用されたみたいだね
ミカサ殿…
…案内を


デタラメだね
いモグラっ.
…ミカサ殿 代わってくれ
まあ待ちな
やっぱり この周りの3体は 見た目通りに ここにいないね
いない…?


今のアタシにゃ
なにも隠せやしないよ
みえる！
アタシの若い頃よりずっと察る！
すごいね
このカラダは
慧来！
…？


なるほど…こんなところに居やがったのかい
いやミカサ殿…
これははるか往昔の記録…
幻影であろ
慧来の…あの頃の姿か…
ああ…幻だともいえるね
ミカサ殿?
予知が効かないはずさ
はン…こっちに気付きゃあがった
こいつらは時の向う側——
過去にいるんだよ
……?それは当たり前のことであろ?……


んっ！
痛ッ
ぐっ
……たった今まで
この罠はなかった
過去から
アタシらの
侵入っていう
未来を予知して――
対処したのさ
……な……
まったく
大仕掛けを
作ったもんだ
よほど…
恐かったんだ
ろうさ
なにかが…


実際こりゃどうしようもない
また
ヒュ
ッ
シュ
タ
ッ
おそらくここを壊しても無駄だろう
ヘタすると場所が代わる
こりゃ無視して逃げたほうがよさそうだ
く……
ミズキ殿!
ゴオオ
ン
はぁ
はッ
はぁ
吾に大見得を切ったであろ
指一本…髪の毛一筋でよい無理を通してみせよ
無茶や
吾はこの愚かな男に…
伝えたいことがあるのだ
ぎゅ


ゴウウウッ
?!


ズズズズ
は…………
…出鱈目だ
ギ…?!
腕一本…
メリッ
ギイイ
時間を越えやがった…
ギイ
ズズズズ


……ぬし
ひとの良人（おとこ）に好き放題をしてくれたの
おお…


この気配は…
我が「鳥」か…
おまえの永劫が…平穏であるように…
吾が…護(まも)ろう
ああ おまえ様
ありがとうよ

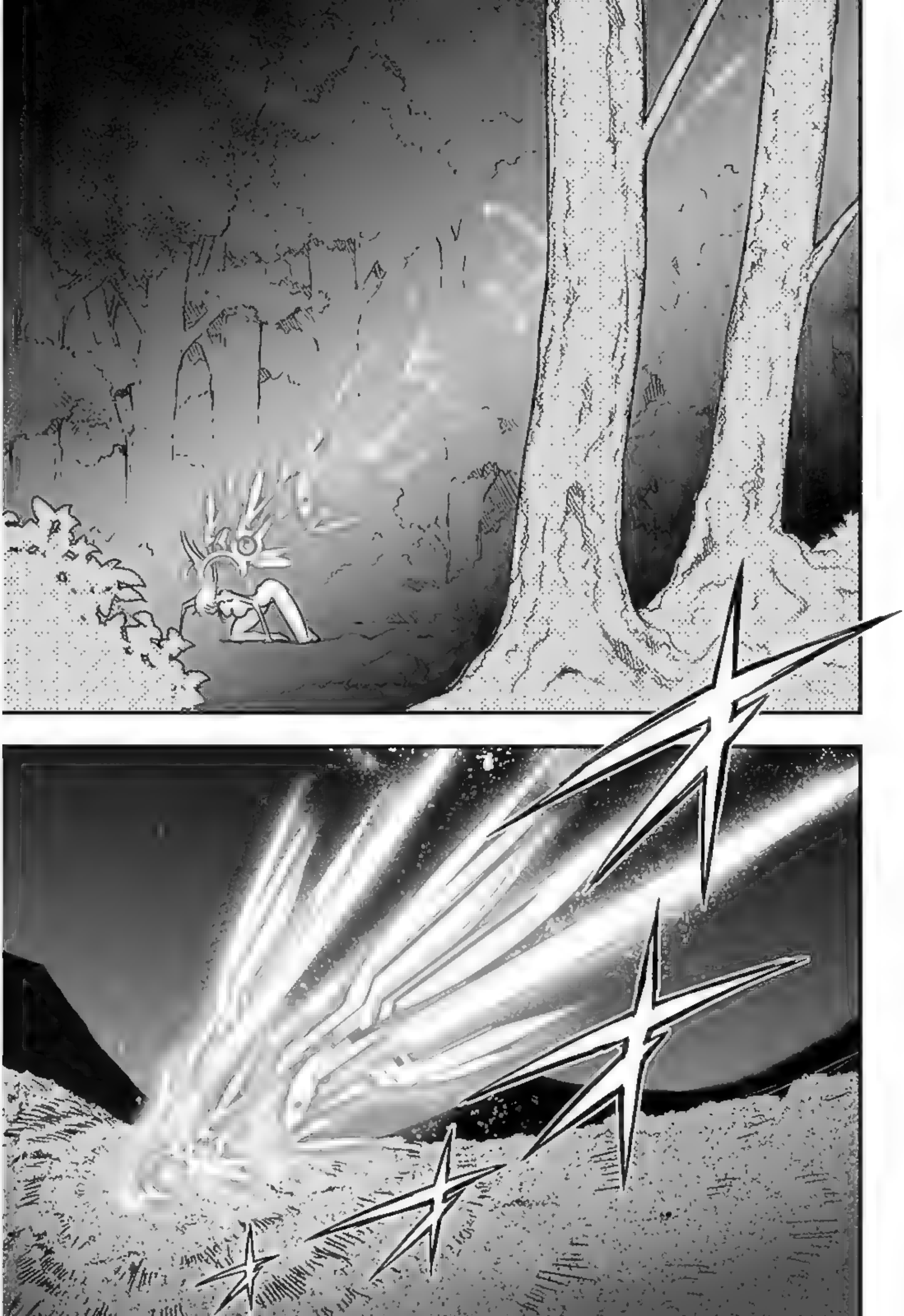


第46話／完

第47話　外側のひとびと









あッ
はッ
はッ
は
もうよい
ミズキ殿！


おふぁ!!
ゴロン
ひあぁぁぁ
ゴロン
オ
オ
オ
ハアッ
ハァッ
ゼェッ
アー
ハアッ


あ――
あっぶなかったっ


まったくだの
そのまま空の果てに飛んでゆきそうな勢いであったぞ
はは…
気持ちよくてほんとに翔んでいきそうになった…
つったく危うい…
しかし
よく…頑張ったの
お!
スザクに合格もらえたの初めてな気がする
おー
吾ながら いつも激甘の採点をしておるのだが不思議なことだの
えー
ふふ…


気懸だった阿呆を看取ってやれた…
礼を言う
礼まで言われた…
おお
今度いろいろ聞かせて
コイバナ
未通女には刺激が強い話ばかりだ
おーい！
あお爺ちゃん
ミズキ！


なんちゅう格好じゃバカもんが！
あうん ごめんなさい
とにかくラスボスっぽいのなんとかしたよっ
おう よくやった！…じゃのうて！聞きたいことが山ほどあるんじゃ！
あそっかフクウ…
それだけじゃないわい！ってその話も後じゃ！
・・・ミカサはどうしたんじゃ！
お婆ちゃん？



ミカサ
お婆ちゃんなら
そのへんに…
あれ？
……逃げおったか
？
おいスザク！
なんだ
ムサシ殿
ミカサのヤツぁ
いくつくらいまで
戻りよったんじゃ
あ
さて…
10歳前後か…
やや下かも
しれぬの
あれは
それが
なにか……
やはり
丁度
ピークか！
ちっ
？
まずい！


一刻も早くミカサを捜して戻すんじゃ！
どうしたというのだムサシ殿
だいたいなぜミカサ殿に逃げる理由など…
は！
ババアなんかに戻されてたまるもんかね


ひひ…
あの中ほどじゃあないがよく見える！
なにもかも察える
凡てがわかる
元になんざ戻れるもんかね
――？


この組み替えは…
あの異邦の連中の仕業かよ
だがなんでアタシらは被らない?
は…アタシらは…
もう埒外ってことかい
じゃあここはどこなんだい!
壺の中だとでもいうのかい!
アタシらはどこへいくんだ


確かに別人かと思うほど暴走気味ではあったが…
幼少時とはいえあのミカサ殿であろ？
そこまで分別がなくなるとは…
あの頃のミカサは別物（ベツモン）じゃ
ゼェ
ゼェ
小さい頃でワシャあまり覚えとらんが延寿より酷かったじゃろうな
延寿殿よりとはたいがいだのぅ
ミカサ！
ハッ



ゼヒェッ
ゼヒュ
ヒュルル
ゼゼェッ
ビクッ…
ヒュッ…
ゼェ
ゼヒュ
ミカサ
お婆ちゃん？
理由は
わかって
おるのだな？
…外に出よると
こうなるんじゃ
見えすぎる
らしくてな
ゼェ
ゼ…
…みえすぎる？
ビクッ
ビク
ヒュ
オーバーヒート
みたいなモンじゃ
なかろうかと
むう…
言うては
なんだが…
よくここまで
生きてこれた
ものだの
しらなかった…

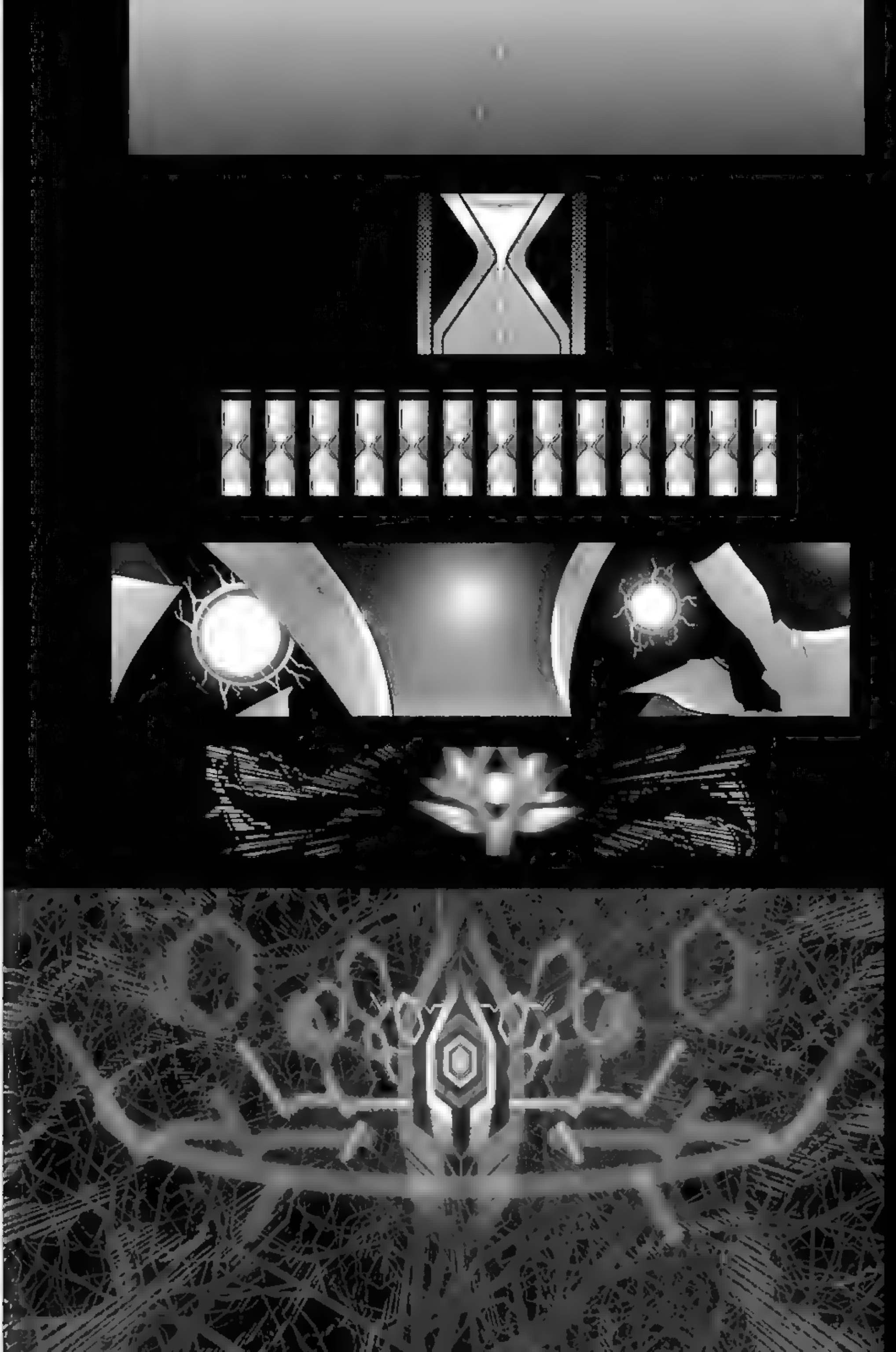

ウチの結界の中じゃと…抑えられとったようじゃ
あ…
延寿も同じじゃ
ワシャ・・・・まともなほうじゃった
二人とも能力が落ち着くか弱まるまで…ウチを出られんかったよ
文字通り…
天地(あめつち)の——
「繭」だったということか
先程と同じくらいの年齢まで喰えばいいのだな
はやくっっもどさないと

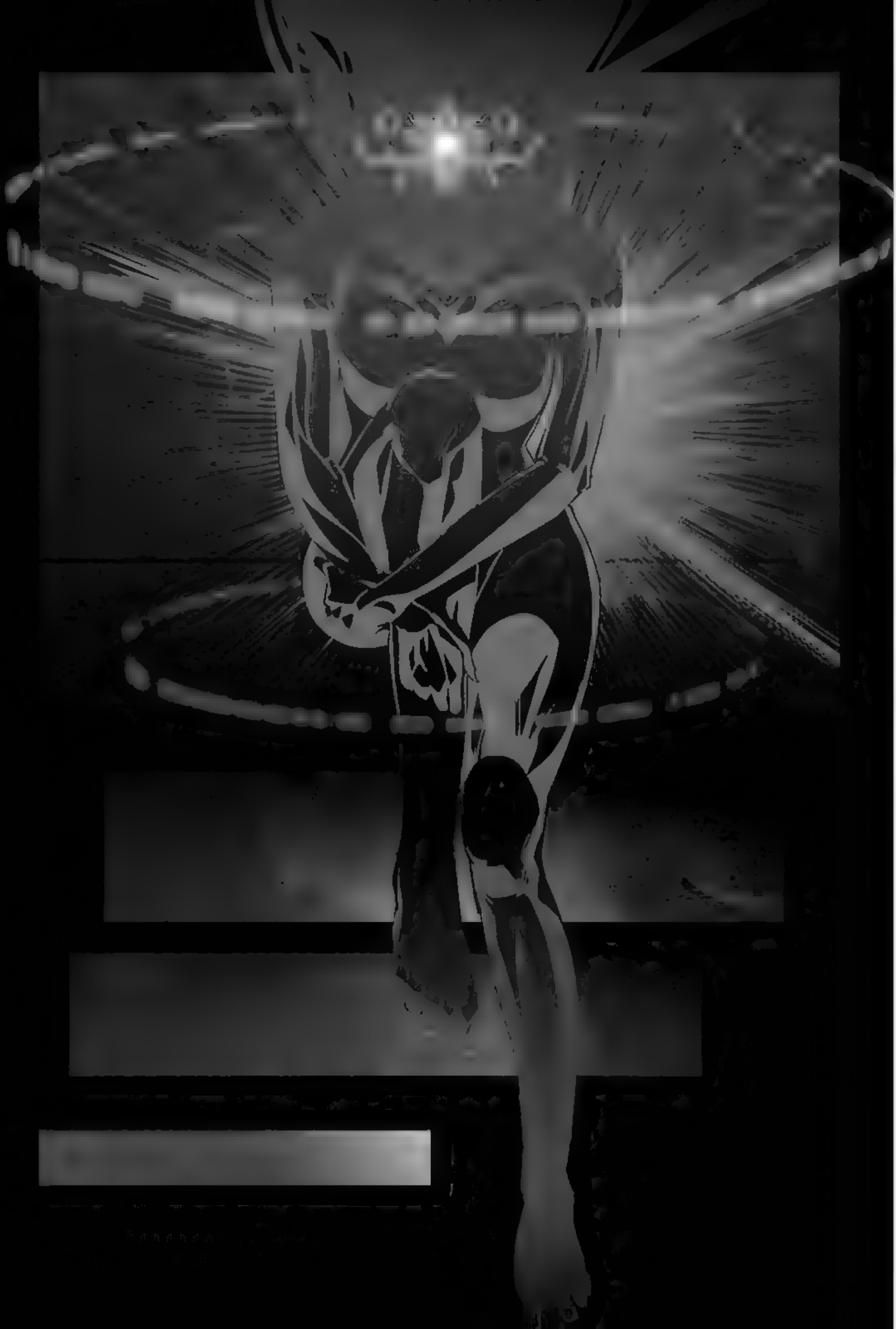

ザザァ…
ザザァ…
若い衆はゲンキだね～
山道とかムリ
ヌ…
パァーン
クンッ
グッ
ブリン


おや
オールドな
クズの人！
どこです
ここは？
さー
現代っ子なんで
星から測量とか
できなくって
山腹としか
グッド
ナマステー
おやまだ
お山だ
うまし！
うざいなー
あれ
「教祖様」は？
…お帰りに
なられたようです
君らって
どーなってんの？
はて…あるじ様は
お見とどけに
なるつもりで
わざわざここに
お留まりに
なられたので
しょうに
もしやお疲れに
ならりるたのれ


とにかく気配がしませんね
……
……？
もっとわたくしの身も心も酷使して欲しかった…
おーい
乙金はどうでもいいが延寿ー
おーーい
さっさと帰るぞ——っ！


狂った夜がやっと明けた…
かな?






――水城です
長い夜が終わりました



日常が……
――微妙に
戻ってきてません
フゥ…
なんで
わしだけ
このままなんじゃ
男手一人くらい
いたほうが
便利だし
色々片づくまで
そのままでいな
ふざけるな！


やれやれ…それにしても
ひどい夜だったね
はっはっ
まあみんな無事なのがなによりさ
元は貴様が先走ったせいじゃろうが偉そうに言うな！
なにをいい話のように
おかげでこっちはあんな連中と協力するハメになったんじゃったく
まあ敵さんの本拠地もわかったことだしさ
カマドさんにまるごと・・・たいらげてきてもらうってのはどうだろう
おや ごはんのお話でありけりますか？
ゆうげのじゃんぴんを？
弱体化しておる今が攻め時やもしれぬな
ダメだから


すっ
お姉様！
朗報なのです！
パァーン
秋葉さん…
朗報…なのか
ちょっと
混乱している
ところですが！
混乱は肉欲で
静めるのです！
落ち着いて
話せ
シュ…
では
順を追って
おっぱいから
その順序
サイテー
ビチ
ビチ
ビチ
コホン
わたくし
秋葉は…
延寿様を拉致した
にっくき
「実済智の光」への
報復として
陰湿な工作戦を
仕掛けるべく
準備していたのです！
キキキ
「実済智の光」？
あの連中の
団体名だよ
はん？…
ズビ



「ギリギリ合法？ かなりグレー もはや真っ黒な 有形無形の嫌がらせ」をひとつひとつ ぽたぽたと 丹念に熟考し
クックックックッ
結果的社会的な 抹殺については 脱税と薬物疑惑を 仕立てるという方針で
……朗報とやらを 先に聞かせておくれで ないかい
……………
それが…
その…
無いのです…
無いって？……
無いといっても 生理のことではないですよ？
身に覚え
そりゃ 無いさ
結論言わないと 殴るよ？
アン そんなプレイも たまには！
グーでした。



無いんです——あの宗教団体が
いえ…もとから「実済智の光」なんてどこにも無かったっていうか…
？… 名前が違っとったっちゅうことか？
いえ
情報が間違ってた？
延寿様に誓って秋葉は——少なくとも一度は確認したのです「実済智の光」という宗教団体について
ま…その情報で僕 実際に訪問したしね
あの施設は…ただの臨済宗のお寺だったことになっているのです
連中が夜逃げしたってことかい？
いえ…その……一度は確認した公的書類も何もかも
night-run away
本舗


何もかも…その…
最初から無かったことになっているとしか
——とにかく敵が消えたのです
待て…
なんていうか…
アタシゃ…心当たりがないこともないね…
テリ…♪
……どういうことだ？……
はいはい
もしもしみやのもりで…
テリン…
もしもし!ミズキか!
あっ。


ちょっと自分に自信が無くなってよ！確認してえんだ！
松川殿が？
うん…？
今…大町がアパートに来ててさ…
いや…確かに以前はよくあったんだけどよ
うんうん
また・・・・・オフクロさんとケンカしたって…
大町殿の母君は…
さすがにツッコむわけにもいかなくってよ…
色々考えちまって…とにかくアイツんちに連絡したらさ…
電話に大町のオフクロさんが…！
いつも通りにオレに「ヨロシク頼みます」って…！
いいことなのか——
なあ…！オレがおかしいのか？
悪いことなのか——
ミズキ…
おまえはどっちだ!?
何かが起こっていて——
第47話／完


宮森
MIYANOMORI MIKASA
ミカサ
of the FUSANT

デスレス

DEATHLESS


だいたい——ン…
あのひとはいつも勝手なんら
どれだけ父と私が振り回されたか
うんうん
今朝も昨晩父の用意していた夕飯を手も付けずに捨てたりだな
うん う…
ん?


思いやりというものがないのだ
正直 父も不甲斐ないと…
ピク
昨晩…？
ザワッ
聞いてるかー
ああ…おフクロさんの話だよな
そうだ
あのひとのことに決まっているだろう
いつものことだ
今日という今日は怒りを通り越して私は――
憲法 2
刑法
大町…
まさか自宅でもあんな調子なのか？


もしもし夜分遅くおそれいり…
あら松川さん？
ああ…あの子またそっちへ行ってるのね
あの…もしもし？
また2・3日おねがいね
ほんとに…ひばりさん？
どうしたの？おたがい名前で呼ばれるのキライでしょ？小鳥ちゃん
…いえ…お元気そっすね……
？…当たり前じゃない
まあ弁護士なんて体力ないとやってられな



第48話　かりそめのひとびと


これが…世にも不思議なアレとかトワイライトなんたらとか
タチの悪い怪談じゃねえってことも別口からも確認した
そうすっとあとは…
間違ってるのが世界かオレかってことにならあな
自分を疑うのも吝かじゃねえけどその前に——
「勘違いして」るのがオレだけなのか確かめたくてよ


といってもアタシゃアンタから聞いたことが全部だからね
あたし…ニュースで見た…
別口で確かめたってなんだい？
これだけどよ
スッ
図書館でとってきた地方版のコピーす
新聞かい…
結論から言うと大町のオフクロさんを殺したってオレたちが思ってたヤツ…あ
うん…知ってたから


ああ…そんな場合じゃねえな
そのクソ野郎だが…
オレが知ってる事件と同じ日に
…まったく別の強盗の現行犯で捕まってやがる
アンタが嘘を吐いてるとも思わないが
う～ん…
アタシャ元の事情を確認してたわけじゃぁないからね
——っす
オレも自分でなに言ってんだって感じすから
じゃあ…
ほんとに…
ボス…
大町の…
生きてるんだ…
ポロ
よかった…
ポロ
ポロ


……
だな…
オレの記憶にある…通夜の様子とか
大町のへこんだツラのこととか考えりゃ
オレの記憶や正気なんざどうでもいいっちゃいいんだけどよ
……
ええい嬉し泣いとる場合ではなかろう
おわ


大体の事情はわかった
おっすスーたん
ミズキは？
うむ
ミズキ殿はこの事ではちと溜めておったからの
しばらく放っておく
ホ～
よかった～
よかった
ナニ溜めてたってんだ
やれ
…身勝手な罪悪感だ
——それより


松川殿が慌てて こちらに確認を 要するということは もっと決定的な ことがあるのであろ
おうさ
スーたんにゃ かなわねーな
温泉行ったときの ハナシだけどよ
温泉……
てゆーか 行ったよな 温泉!
まちがいなく
うむ
美食と癒やしの 桃源郷であった
臭え天狗に 襲われたよな!?
…あの鳥なら 屋根の上に おるぞ
グルポ


わりい 確認しねーと 自分でも混乱 しててよ
んでもあの ボケオヤジの ヤローが
今年はもう 来ないのかい 小鳥ちゃん
キミは わがまま だから 友人は 大切に しないと
大町さんと ケンカでも したんじゃ ないだろうね
——なんてこと 言ってやがるし
色々確認してみた わけだな？
ああ… 大町(マチ)の件で 動いたこと 全部だ！
・・・・・・・・なかったことに なってやがる！
やっぱ オレの個人的な 記憶違いだけじゃ ねえんだな？
こりゃ なんの陰謀だ ああ？


吾には…この事態について心当たりがある
これは…そう
おそらく陰謀なのだ
だが…松川殿の言うような意味合いでの「陰謀」ではない
いんぼう…
吾は先日の事件の渦中にあることをした
今の有様はおそらくその影響だ


……ミカサ殿は先日の事件について中途より記憶が無いのだったな
ああ…昔からあの頃についての記憶は断片的なのさ
精神を安定させるためなんだろうが…
現実がどれだかわからなくなるくらい狂った視界だったからね…
……うむ 言うてはなんだがぶっ壊れておった
そのことも含め松川殿に説明するがよいか？
ああ かまわないよ


はーりら
はーりれ
おつかれさまでいてございませ
……どうも
ここ数日…日中にお出かけですが
なにか用事でも？
はれ
すみませぬでして
ひみつなのでしてまする


バケモノにゃ愛想よくしないんじゃなかったのか
うるさいですね
♪はーりら♪
あれは人語を解する猛獣のようなものです 他所で腹を満たしてきてくれるならいいことじゃあありませんか
ただいまなのでして
おめぇ感じ悪ぅ
カマドさん夕飯はサカナがいいな
おまかせしてされ!
トタトタ
しし なんだって!?
どこもタイヘンだぁー


過去を…
変えた？
…おそらく
あのとき われらは… ミカサ殿が 映し観た「過去」に
おいおい SFかよ
干渉した


タイムパラドックスってヤツかい
おー バーちゃんすげえな
ぱらど…
バカにおしでないよ
「タイムマシン」て映画なんざ40年前に観たさ
タイムパラドックスて言葉自体に矛盾を感じるけどね
むむ
とにかく…ここはアタシらの知ってる「世界」と微妙に違う「世界」なわけさ
それを前提に考えるとして——
「世界」かよ
そうさ「世界」単位だ
だの
吾らの知っておる世界から何がどこまで変わったか確認のしようもないしの
大層なハナシになっちまったなー
とにかくその前提でいくと最大の「矛盾」は…


吾ら自身
そうさ
とにかくなぜアタシらが「取り残された」のかが問題さ
オレら…？
なんだよな…
大町もオヤジも違ったのに…なんでオレが混じってんだ？
そこがわかんねぇ
……
そのことについては
吾に心当たりがある
ことこれについては遠因は吾にある…
？


もう少し調べてみぬと確証は持てぬが……
……そうか
「時」……
コク
そうだ
とかく……吾か……吾らかが
「時を喰らった相手」のみが世界の変化から取り残されておるのではないか……と



なるほどな
だいたい
原因がわかった
だけでもスッキリ
したぜ
じゃオレ
バイトの時間
だからよ
こんなハナシ
聞いた後で
なんか小っちぇえ
けどな
そんなこと
ないよ
ギュ
ギュ
このヘンのことで
オレにできるこた
ないし
せいぜい
ノートと
代返くらい
まかせろ
お願い～
マジで～
帰りなすった
かい
バイトだって
ガラ
それはそれ
これはこれか
アンタも
見習いな
は～い
それはそれ…
だな


ミカサ殿
とかく此度のことについてじゃ申し訳無い
え
ミズキ殿を止めるどころか吾まで見境無く激情に駆られてこの始末だ
えーと
約定を違えたに等しい
この通り陳謝する
いいや
……こういう流れだったのかもしれないさ
アタシらも思い上がって浮かれてたんだ



どのみち…あそこでアンタらが来ないままアタシらが死んで…
その後ミズキがどうしたかなんて…もっと悪い想像しか浮かばないね
しかしこれで…いよいよミズキに何もさせるわけにはいかなくなったさ
特に今回のは危なすぎる…
まったく…
けっこう大丈夫だってば
ハァ
どこがだ


アンタ暴発寸前だったじゃぁないか
うん…あのときはパンクしそうになってたんだけど
そのおかげでちょっとコツがわかったっていうか…
イヤな手応
コツ？……
うんあのね？
……？
るーー
るる――
なに？
……？
なに？
なんだいこのもの悲しいしらべは
るーるー
るーる
それでいてどこか腹の立つ旋律だの
イラッ
外から聞こえてくるみたいだよ
玄関のほう？
トタ
トタ
なんなの？



♪る──る──るる──
♪る──る──る──


る〜
る〜
る〜
る〜
♪
ニガテだな
うっわ…
きも—
栞の方だね
ニコ
なんの用？
期限の日までまだ時間あるでしょう！
る〜
ピタ
……
ヘーイ
わたくしにはわかります！
すべてあなた方のせいです
なんの話？
大荷物だの
ニコ


あのあと一人で取り残され
下山してみれば要領を得ぬ信徒数名が呆然としているだけ
他の者は？
車は？
？？？？
なんとか中央主殿まで帰り着いてみれば
盗
盗
わが「実済智の光」の影も形もないどころか……
教団の聖所には見知らぬボウズ共が千年前から居座っていると主張している始末
こちとらあるじ様を万年前から愛してましたっていうのに！
知らぬわ
え……つまり…


我が栄光の「実済智の光」が地上に如何なる痕跡も残さず消え失せた事
全てあなたがたの仕業ですね!?
わかっています!!
黒いライダーとかどっかの国じゃあるまいし一方的にひとのせいだって決めつけられてもなー
ああ
・・・そういやコイツもだったね…
あの…教祖様はどうなったの?
がってむ…
あるじ様の気配も消えてしまったのです!
あんな~に一緒だった~のに!
歌ってる?
歌ってません!
消えた…
……
……てことは…
…一月(ひとつき)
一月くれてやろう


あれも
ウチの地上げ問題も――
有耶☆
無耶!!
ゼバ
タイムパラドクス☆
パクった
ウヤムヤ…
あたしの一番好きな言葉だ!
面倒ごとがいっぺんに無かったことになるなんて
…どうかと思う


だってこれで ヘンなひとたちと たたかう必要も無いし
危ない力とか 使う必要も 無いんだから いいことづくめ じゃない
……
まあの…
驕るがいいです 平家野郎ども！
いつか壇ノ浦の 空の下で！
おなかがすいて つかれました ○トラルシュ
ところでわたくし 行くところが ありません！
パ○ラルシュ？
そんなこと 言われても…
めんどくさ
ギャア
ふざけるんじゃ ないわい
ばかなことを
何のギリか
どっかいけ
ギャア
あきらめた…？
あやつら共が？


そんな殊勝な
性のものには
見えなんだがの
第48話／完

デスレス 第七巻

・製作
六道神士

・作画補助
木林田 ウナム
たけぽんG
春夏秋冬 鈴

・担当編集
筆谷芳行
（順不同・敬称略）



YOUNG KING

http://shonengahosha.jp

電子書籍版

デスレス

7

六道神士

発行・株式会社少年画報社
〒101-8388　東京都千代田区三崎3-3-12